

SHINGON HORONIC

色

IRO

は

WA

匂

NIO

へ

E

ど

DO



特集 信貴山縁起絵巻

平成十六年長月 卷三十二



智慧ある人

昔、足の感覚の優れた王がいた。悪路を歩くことを嫌って国中の道を革で敷き詰めるように命じた。

革職人がやってきて「王様のご下命は可能ですが国中の金を使うほど費用がかかります。」

そこに隣国の革職人がやってきて「私にご下命頂ければ半分の費用でいたしましょう。」

そこへ村で一番貧しい、しかし村一番の智慧がある老婆がやってきた。

「王様、私なら麦藁一束分のわずかな金で国中どころか王様が世界のどこに行っても革の上を歩けるようにしましょう。今すぐに。」

王様は老婆に頼んだ。

老婆は王の足のサイズを測ると器用に革を裁断して一足の革靴を差し出した。王はどこへ行っても心地よい革の上を歩くことが出来るようになり、大いに満足した。

特集 信貴山縁起絵巻

3



お釈迦さま 真理の花束



13

現代の道しるべ



16

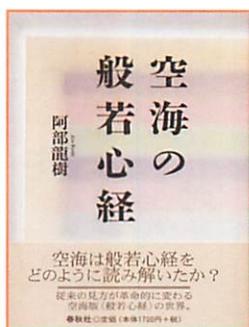
本の紹介

18



空海の般若心経

15



空海は般若心経を
どのように読み解いたか？
従来の見方が革命的に変わる
空海版「般若心経」の世界。
春秋社出版 (単行本1100円+税)



ジャータカ物語 金の白鳥

11



信貴山は生駒山脈の南端にあたり、奈良と大阪を見渡せる景勝の地です。

聖徳太子が仏敵、物部守屋討伐の軍を指揮してこの信貴山に登りました。

戦勝を祈念していると、毘沙門天が虚空に現れました。

この奇瑞に勝利は間違いないと確信された聖徳太子は、見事に守屋軍を破りました。太子は山上に毘沙門天の尊像を安置して、信ずべき貴き山、信貴山と名づけました。

その日が寅の歳、寅の月、寅の日でした。以来、寅年の守り本尊としても大きな信仰を集めています。

やがて時が移り平安時代中頃になります。命蓮上人が信州から奈良に修行に来ていました。東大寺で修行をしていると、遙か彼方に信貴山を感得して上り、中興しました。

米俵の話は後に詳しく紹介しますが命蓮上人は、鉢に米俵を乗せると、その鉢は蔵から飛び出し、それに続いて総ての俵が雁が連なるように空を飛ん

風に乗る輪宝をめぐらせ醍醐帝のもとに駆けつける剣鎧童子。全体に「異時同図法」という異なる時を一画面に描き込む技法が巧みに使われ気配をも描写する。



で山崎長者に返されました。

ちょうどそのころ、延喜の帝（醍醐天皇）が重い病に伏され、様々の御祈祷、御修法、御読経など、あらゆることを尽くされましたが、何の験もみられませんでした。

ある人が、「大和の信貴山に籠って修行に勤め里に出ることはない優れた聖があります。お召しになって祈らせるならば病も回復されるでしょう。」

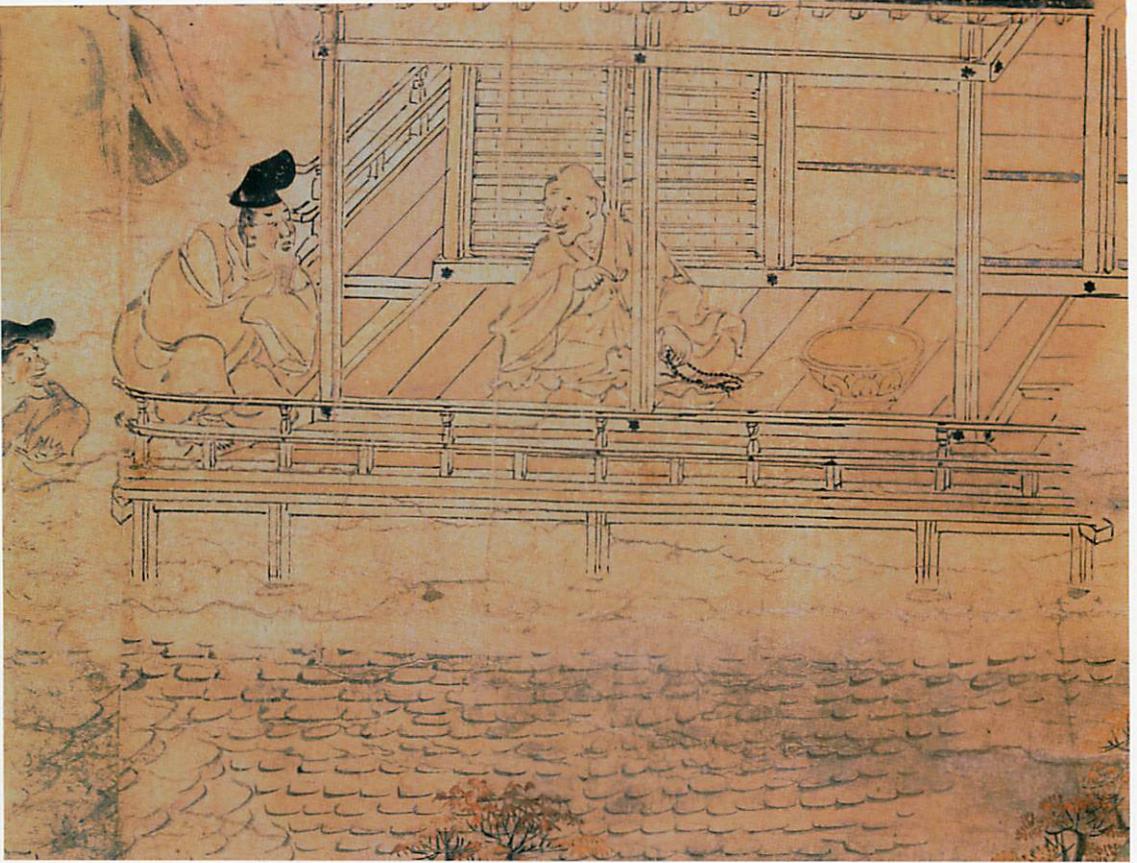
そこで、蔵人を召して使わされました。

勅使が山に登ると、見るからに尊い聖でした。

「こういう次第で宣旨で召されています。」と伝える

と、「行くには及びません。ここで居ながらに祈りましょう。」と。勅使は「それでは、たとえ回復されても、どうして聖の効験と知ることが出来ましょうや。」という、聖は、「その時は劔の護法を参らせましょう。帝が夢にも幻にも御覧になれましたら、祈りの験とおわかりになるでしょう。劔の護法童子です。」この由を復命して三日ばかりたった昼の頃、帝は、ふと微睡まどろまれるとまもなく、何かきらきら光るものを御覧になられました。「これこそ聖の言った劔の護法に違いなからう。」と、お思いになると、忽ち御心はさわさわとならせられました。帝は尊いこと思し召され、「僧都、僧正にも任じよう、莊園も寄進しよう。」と仰せられたのに対して、「却って煩わしいことになります。」と上人は固辞したのでした。

またある時命蓮は托鉢の鉢だけを飛ばして托鉢をしていました。



立派な校倉がある山崎長者の屋敷に鉢が飛んできました。長者は「また欲張りな鉢が来たな。倉の中に閉じこめて懲らしめてやろう。」

長者は鉢を倉に入れ外からかんぬき門をかけた。

すると倉がゆらゆら揺れだし浮き上がりました。倉は見る見る高く上がると、門をかけたはずの倉の中から鉢が現れ、倉を乗せるとますます高く上がりました。

鉢は倉を乗せたまま飛行を始めました。

長者も人々もあわてて鉢と倉の後を追いかけてます。

やがて倉は信貴山の頂上に着きます。

長者は命蓮の処へ行き、「まことに情けないことです。いつもは鉢に物をお入れして差し上げるのに、今日は忙しさで鉢を倉に入れたまま忘れておりました。すると倉ごと空を飛びここに来たと言うわけです。どうか倉をおかえしくだされ。」

命蓮は「それは不思議なこと。しかし倉は飛んできたのだからいただこう。ここには倉がないのでちょうど良い。積んであります中のものは持つて帰られよ」

長者は「倉には千石の米俵が積んであるんですよ。どうして運べましようや。」



命蓮の指示で俵を鉢に乗せると、鉢は飛び立ち、他の俵も雁が飛ぶように鉢に付き従い長者の屋敷に戻った

「それはいと易いこと。私が運んで進ぜよう。」というと命蓮は鉢に米俵を一つおきました。すると鉢は俵を乗せたまま浮き上がりました。

他の俵も雁が飛ぶように先頭の鉢について飛び出しました。

長者は自分の浅ましさに気づき「千石ぜんぶはこぼすとも、二三百の俵はここへお残してください。」命蓮が取り合わないので長者は「では当座の十俵か二十俵はお残してください。」

しかし命蓮は「そんなにいることはないよ。日々托鉢すれば十分だから。」といって俵は全部返してやりました。



命蓮には故郷の信濃に姉が一人ありました。姉は命蓮が修行に旅立ってから長いこと帰って来ないので、心配になり探しにでました。命蓮が東大寺で授戒すると聞いていたので、奈良に向かいました。

人々に命蓮の消息を尋ねましたがだれも知りません。鹿の遊ぶ坂で旅人に道を尋ねると、奈良東大寺がほど近いことを知りました。

奈良中を尋ねても命蓮の事はわかりません。

一場面に何人もの尼公が描かれる。祈る尼公、休む尼公、通夜する尼公、時間の経過を一場面に織り込む異時同図法



ついに東大寺の大仏様の御前で通夜をしてすごしました。夜も明けようとする時、夢の中に大仏様が「お前の尋ねる僧は、未申の方角の紫雲たなびく山に居る。」とお告げがありました。

お告げの通りに尋ねると、そこには命蓮が紙衣かみぎぬ一枚の姿でいました。

「お前にこの綿入れを着せて上げようと思って尋ねてきた。」と行って命蓮に綿入れを渡しました。

これより二人は一緒に信貴山で過ごしました。

東大寺の大仏様に夜通し祈り、弟命蓮を探す尼公。この東大寺図は一一八〇年平重衡の南都焼き討ちの際に焼け落ちる以前の姿であり、東大寺建立当初の姿を描いた唯一の資料。

信貴山と覚鑿上人

信貴山は真言宗中興の祖、興教大師覚鑿上人が修行したことで知られています。

覚鑿上人は千日の間一言も話をしない無言行や、虚空蔵菩薩求聞持法を何度も修行されました。

この信貴山でも真実不二を求めて深い行に入られています。



ついにある日、本尊様から真実不二の玉ぎよく、如意宝珠を授かります。以来ご本堂の地階に安置されています。

ご本堂地階は漆黒の世界ですが、右手を壁に凭借着て歩くことが出来ます。宝珠を安置した扉には大きな錠前があり、この錠前に触れられると御利益にあずかれます。信貴山の玉蔵院の名前は覚鑿上人が感得されたこの如意宝珠によるものです。如意宝珠の広大無辺の御利益から、いつしか「融通さん」と呼ばれるようになりました。

聖徳太子が闘いのさなかで毘沙門天を感得したその日が、寅の歳、寅の月、寅の日でした。寅は毘沙門様のお使いとして、また聖徳太子が戦いに勝利したことから、戦勝の守り神として大切にされています。

信貴山の寺号は朝護孫子寺といえます。絵巻でも有名な命蓮上人が醍醐天皇の病気を治したことから、

朝廟安穩 守護国土 子孫長久 の祈願所として朝護孫子寺の称号を受けています。

塔中は玉蔵院、成福院、千手院がありいずれも宿坊で宿泊できるので、日本中から今も多くの方々が参詣者で賑わっています。



信貴山

玉蔵院 0745-72-2881

成福院 0745-72-2581

千手院 0745-72-4481

交通

* 大阪～天王寺～王寺（快速35分）

* 名古屋～王寺（2時間40分）

* 奈良～王寺（15分） 王寺～信貴山下
（近鉄）～信貴山（バス）

王寺～信貴山（タクシーで約4km）

三郷～信貴山（バス・タクシー）

金の白鳥

絵 美香

美術指導 小原洋子先生

むかしむかし菩薩様がバラモンに生まれてきたことがありました。おなじ階級のむすめと結婚して、三人の女の子が生まれました。やがてバラモンが亡くなって、子どもたちとその母親は、よそのうちに引きとられました。

いつぼう、バラモンは金のハクチヨウになって、またこの世に生まれました。ハクチヨウは大きくなると、金色の羽におおわれた、美しい姿になりました。ハクチヨウはじぶんの前世のことを思い出す力をさずかっていました。そしてある日、じぶんが前の世で人間だったことを思いだしながら、むかしの妻やむすめがどうして暮らしているだろう、と思いました。空から探すと妻たちはほかの人に使われてやつのことで暮らしていることがわかりました。

ハクチヨウは、金でできているじぶんの羽をながめ、この羽を一本ずつ、つぎつぎにやったら、妻やむすめたちが楽に暮らせるだろうと思いました。そう思うといても立ってもいられず、妻やむすめたちの住むところへ飛んでいききました。妻やむすめたちの住む家の屋根のてっぺんにとまりました。

それを見たバラモンの妻やむすめたちは、
「あなたはどこから来たの。」と、たずねました。ハクチヨウになった菩薩様のバラモンは、

「わたしはおまえたちの死んだ父親だよ。金のハクチヨウに生まれかわって、おまえたちにあいにきたのだ。おまえたちが人にやとわれて、苦勞をしているのを見て助けに来たのだ。」と、言いました。そして
「おまえたちに、わたしの羽を一本ずつ、あげることにしよう。これを売れば、おまえたちが安楽に暮らせるくらいのお金にはなるからね。」

そう言って、金のハクチヨウはじぶんの羽を一本ずつ、帰っていききました。それからときどきやってきては、また一本ずつ羽をくれました。それを売ったお金で、母親とむすめは財産もできて、しあわせに暮らすようになりました。





ところがある日、母親がむすめたちに言いました。「動物というものは、あんまりあてにはならないものだよ。そのうち、ふいっとどこかへいって、それっきり帰ってこないともかぎらないよ。こんど、あの鳥がやって来たら、すっかりはね毛をむしって、全部わたしたちのものにしてしまおうじゃないか。」

むすめたちは、「そんなことをしては、おとうさんがかわいそうだから、いやです。」と、言いました。けれど欲のふかい母親は、ある日、金色のハクチョウがやってくると、「こっちへおいで。」と、よびよせて、両手でつかまえて、羽をむしりとってしまいました。ところが、むりにむしりとると、ハクチョウになった菩薩様の羽は、金ではなくなって、ただ白い羽になってしまいました。かわいそうにハクチョウはもういくら羽をひろげても、飛ぶことができなくなりました。そこでバラモンの妻は、鳥を籠に入れて飼っておきました。

時がたつと、ハクチョウの羽はもとのように生えそろいました。しかし生えそろった羽は、ふつうの白い羽でした。つばさがもとのようになると、ハクチョウは飛びさり、二度ともう、もどつては来ませんでした。



お釈迦様真理の花束

Who is full of faith and virtue possessed of
repute and wealth, in whatever land he travels,
every where respected.

有 信 則 戒 成
從 戒 多 致 賢
亦 從 得 諧 偶
在 所 見 供 養



信ありて

戒めをそなえ

誉れと富とを

有^もてるもの

いかなる

ところに赴くも

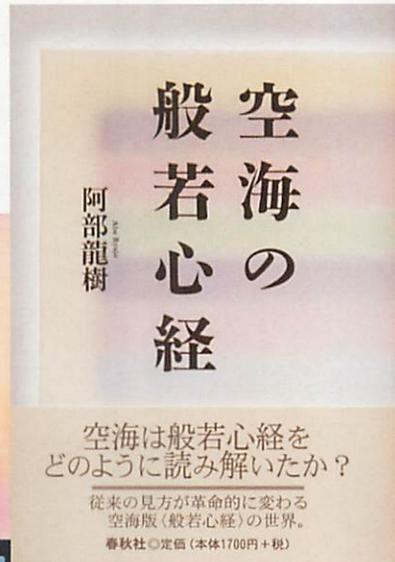
ことごとく

恭敬せられん

阿部龍樹 最新刊 春秋社

『空海の般若心経』

『空海の詩』も
好評増刷発売中



空海という名前も般若心経という経典の名前も誰でも知っています。
しかし空海が『般若心経』を書いていたことを知る人は少ないと思います。
「空海の『般若心経』」と言えば二つの意味があります。

一つは空海が書写した『般若心経』そのものであり、今ひとつは空海が著した『般若心経』論です。この本では後者の意味での空海の著作、『般若心経秘鍵』の中に鏤められた美しい偈頌を読み込みながら空海の心経論を繙いていきます。偈頌だけではなく散文にも美しい響きがありその中の特に深い意味を秘めた文章をもこの本では詩と捉えて読み込み、空海の心経論をより親しみやすい形に構成してあります。

空海はこの『般若心経秘鍵』を最晩年に著しました。秘鍵とは文字通り秘密の鍵と言う意味です、それは『般若心経』の秘密を解き明かす鍵であり、同時に『般若心経』が秘密曼荼羅を解き明かす秘密の鍵であるということです。

空海がこの『般若心経秘鍵』を著したのは承和元年（八三四）。この年の五月空海は弟子たちを集め「もろもろの弟子たちよ 諦（あきら）かに聴け 諦かに聴け
吾が生期は今尽きようとしている 和を保ち 教法を守れ
吾れ永く山に帰らん」

と説き、この年の秋十一月十五日再び弟子たちに自らの最後の時を明年承和二年三月二十一日寅の刻と明言されました。この年の二月、空海は病と穀を絶った厳しい体調の中で東大寺に赴き自らが建立した真言院に滞在していた。この時この『般若心経秘鍵』が著されたと考えられます。

残されたわずかな時間と、それまでに成し遂げておきたい多くの課題の中で空海は最後の著述として『般若心経』をテキストに選び『般若心経秘鍵』を著しました。

それほど空海がこの『般若心経秘鍵』にかけての思いには深いものがあります。『般若心経』ほど、だれにでも親しみやすく分かりやすく、空海の秘密曼荼羅の思想を現した経典は他にありません。

高野山と熊野・吉野が世界遺産に

高野山御影堂



高野山から熊野全域の参詣道が世界遺産に登録されました。すでに日本では法隆寺や厳島神社など11が世界遺産登録されています。

しかしこれほどスケールが大きく、かつ現代に生きている世界遺産は他に類例がないと思います。

昨年夏に何人かの方を高野山にご案内しました。宿坊に泊まり、朝の勤行を一緒にお勤めして、奥の院まで歩きました。

樹齢何百年という鬱蒼とした杉木立の中を奥の院まで歩く参道は、お大師さまに会うために、自らの身心を浄化させるような気がします。同時に時間や時代を超えるタイムトンネルのようでもあります。

多くの方が高野山というと山深く、なにか暗い狭隘な場所をイメージされるようです。

しかし実際にご案内すると、そのイメージが一変するようです。

高野山がまさに名前の通り、高い山の上に開かれたのびやかな広野であり、明るく光に溢れています。

同時にそれは弘法大師空海がもつ光でもあり輝きでもあります。お大師さまは日本全域を光に満ち溢れた、神仏がともに住まう清浄な空間として再生させていきました。その光はけっして排他的な光ではありません。闇さえ包み込む深みのある光です。異なる存在や価値を認めるだけでなく、より高い次元へ導く光です。



熊野古道

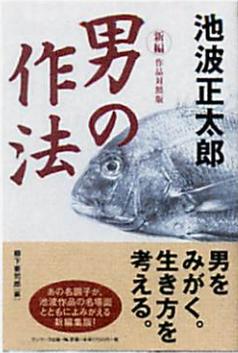
日本に長く住むスイスの方が、日本に来てから日本の深い宗教性に感動してキリスト教をやめたと言われました。とくに仏教が日本に深く拡がり、日本の神道と見事に融合し精神性の高い文化（建築、文学、音楽、教育等々）を育てたことに感銘されていました。その方が今、空海に大きな関心を持たれていますが、日本を学べば学ぶほどお大師さまにたどり着くことは、とても自然な事です。

さてこの夏、高野山では世界遺産に登録されたことを記念してコンサートが開かれました。選ばれたアーティストはヴァイオリニスト川井郁子さんです。お大師さまと同じ香川県出身の川井さんの音楽の目指すところは大自然や宇宙への感動と憧憬と感謝であり、自らの中の深き情熱です。

年に一度、川井さんを囲むディナーコンサートがあります。今年も伺いましたが、聴衆に深く語りかける旋律や、迸る情熱は川井さんのヴァイオリンの大きな特徴ですが、今年は音の一つ一つ、紡がれる旋律のすべてが圧倒的なスケールでした。まさに今回のアルバム「AURORA」のタイトルそのものでした。また伴奏の朝川朋之氏のハープとピアノの演奏も絶品でした。



川井郁子「AURORA」



例えば『無断駐車禁止』とかいてない駐車場に他人が勝手に車を置いていても仕方がない、『禁煙』『携帯使用禁止』等と文章で明記されていなければ、何をやってもいいという悪しき風潮が蔓延しています。明記していなければそれを逆手に賠償金を取ろうという輩までいます。アメリカの悪しき風潮です。アメリカの弁護士が日本の煉瓦舗装の歩道を見ると、煉瓦の一個一個がお金に見えるそうです。社会全体での共通認識がしっかりしていれば、そうした訴訟社会はありえません。

江戸時代では明文化することが恥ずかしい事でした。『粹』ではなかった。社会全体で共有するマナーや常識がしっかりあって、それが出来ない者は大人として社会人として認められませんでした。せまい江戸では庶民も武士もお互いに認めあい、譲り合うことから住み易い環境が整っていました。

江戸時代を舞台にした名作「鬼平犯科帳」「剣客商売」等を数々著した池波正太郎は生きる達人でもありました。この『男の作法』は「食べる、住む、装う、つきあう、生きる」という五章にわたって池波正太郎の美学が語れています。美学があるところに人も集まり善き縁も広がります。日本のひとつの美学は引き際の美しさでしょう。

『男の引き際』黒井克行著 新潮新書



さて11歳の子供の事件について多くの方から意見を求められました。11歳が大切な年齢であることは「色は匂へど」巻28で書きました。付け加えればメールとインターネットそしてゲームには年齢制限が絶対必要です。人をひき殺さなければ勝てない自動車レースゲームや相手を殴打し蹴り倒すゲームに人気が集まります。虫も殺せぬ男の子が、こうしたゲームに最初は嫌悪感をもっていました。しかし友人の家で集まれば、ゲームをするようになります。いつしか男の子の感覚はこのゲームに慣れ親しんでいきます。ゲームの中で人を傷つけ殺める感覚に慣れ楽しむようにさえなります。ソニーの出井氏や任天堂の山内氏にはぜひこの現実を直視して、ゲーム等の年齢制限を自主的に設けていただき

きたい。暴力的なシーンや性描写の露骨な映画には年齢制限があることを考えれば当然です。またインターネットは情報の土石流のようなもので判断力がじゅうぶんでは無い子供には、受け止めるだけの心の準備ができていません。メールも大人同士でも誤解や曲解を生みやすい危険なものです。コミュニケーションはまず会って話すこと。相手の顔の表情や仕草だけではなく、会うことで無限の情報を共有できます。会えば言葉が少なくても分かり合えます。



『殺意をえがく子どもたち』三沢直子著学陽書房

本の紹介



『高野山の案内犬 ゴン』 関 朝之著ハート出版

高野山が世界遺産に登録されたことは16頁で紹介しました。弘法大師は狩場明神が連れる白い犬と黒い犬に導かれて、高野山を発見されたと言われています。その高野山の麓に九度山慈尊院というお寺があります。高野山の入り口であり女人高野ともいわれます。女人禁制だった高野山です。お大師さまに会いに来られたお大師さまのお母様玉依姫がここに住まれ、お大師さまは月に九回も険しい山道を歩かれて玉依姫に会いに来られたので九度山と言われます。

この自尊院から高野山までは二十キロ、その一町ごとに町石ちやういしという石塔が百八十基建てられています。ですからこの道を町石道ちやういしみちといいます。高野山に登るには今ではケーブルや大型バスが通れる道も整備されていますが、この町石道はお大師さまが実際に何度も何度も歩かれた道です。この道を歩かれるお遍路の方が今も多くいます。

この町石道をお大師さまを導いた白犬の如く、お遍路さんを案内し続けた犬が実在していました。つい二年前まで。名前は「ゴン」その「ゴン」の本が出版されました。



『ただマイヨ・ジョーヌのためでなく』

ランス・アームストロング著 講談社

日本ではあまり注目されていないスポーツに自転車競技があります。その自転車の世界最高かつ最大の競技がフランスで年に一度夏に開かれます。「ツールドフランス」と呼ばれるこの自転車競技は文字通りフランスを一周する過酷なレースです。20のステージに分かれ、前のステージまでのトップの選手が黄色いTシャツ（フランス語でマイヨ・ジョーヌ）を着けることが許されます。このマイヨ・ジョーヌは自転車競技者の誇りであり夢ですが、そのマイヨ・ジョーヌに過去五年連続で袖を通し、今年、ついに前人未踏の6連覇を成し遂げた選手がいます。ランス・アームストロングというアメリカ、テキサス生まれの選手です。21歳の若さで世界選手権に優勝。しかし彼の身体を癌が襲います。睾丸癌、癌が見つかった時はすでに肺と脳に転移していました。生存率20%以下。しかし彼は復活します。彼は復活と同時に続々と契約を希望するスポンサーやチームがあると思いましたが、一社も来ないという現実さらされます。それでもレースに復活しました。

スポーツには必ずルールがあります。しかしどんなスポーツにもルール以前の共通するマナーがあります。ルールブックに明文化されていないものです。不文律です。

最近では明文化されていなければ、明文化しなかったほうが悪いと言われる。



『ゴルフはマナーでうまくなる』鈴木康之著日経ビジネス文庫

五條の
だだ押し



次号特集 五條のだだ押し

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI Editorial Staff/ SAMURO MIWA OYAMA CHIGUSA SHIMAZU RYUTOKU
KAWASAKI YUKIKO KAWAMURA KAZUYA KARASAWA JITSUYO

Making Mechanic SHOEIDO Printing KORINKAKU

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話03-3705-1622 ファクシミリ03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一卷第三十二号 平成十六年長月一日発行

2100